

2

環境こだわり農産物って？

滋賀県内で農薬や化学肥料を通常※)の5割以下にして、同時に琵琶湖をはじめとする環境に対する影響を小さくした栽培方法を使って生産したことを滋賀県が認証したのが「環境こだわり農産物」です。

※)「通常」とは、県内で一般に栽培される場合に使われている農薬や化学肥料の使用量を調べて、平均したものです。

また、農薬の中には混合剤といって、2種類以上の成分を混ぜたものがあります。2種混合剤を1回使えば2剤とカウントします。同じ農薬でも、2回やれば2剤とカウントします。このように、農薬を使った回数でなく、農薬の成分ごとにカウントしています。

なお、ここで言う「農薬」とは化学合成農薬を指し、天敵昆虫や生物農薬、除虫菊乳剤、食酢などは含みません。



なぜ、有機栽培のように農薬を全く使わないようにしないの？

有機栽培では、化学農薬を一切使用せずに、肥料も有機質のものばかりで栽培します。そのためには、とても手間がかかり、たくさんの面積で取り組むのは大変です。高く売れないと割に合いません。もし、害虫や病気が大発生したら、野菜などでは全滅する場合があります。

有機栽培は非常に難しいということで、まずはできるだけ多くの生産者が環境こだわり農産物に取り組んで、そこで使われる農薬を半分以上にすると、滋賀県内で使われる農薬の総量が減ることになります。

もちろん、有機栽培された農産物が欲しい方は、有機農産物を買っていただきたいと思います。現在、有機栽培されている生産者に、レベルを落として環境こだわり農産物にしてくださいというものではありません。

環境こだわり農産物では、農薬を通常の半分以上に減らす工夫はどうしているの？

農薬には殺菌剤、殺虫剤、除草剤などがあります。

殺菌剤 (病気を抑える)

を減らすためには、

- 粗く植えて風通しをよくする
- 雨が当たらないハウス栽培にする
- 病気が出にくい品種を使う
- 肥料を切れさせない

などの方法があります。

しかし、粗く植えると病気は出にくいのですが収量は下がることが多いし、病気が出にくい品種は味がいまひとつだったり、マイナス面もあります。



黄色蛍光灯で夜蛾をよせつけないようにする

殺虫剤 (害虫を防除する)

を減らすためには、

- ハウスに害虫が入らないように防虫ネットを張る
- 害虫(夜蛾)が嫌う黄色蛍光灯で、来ないようにする
- 夏の暑い時期に地面をビニールフィルムで覆って高温で地中の虫を殺す
- 粘着剤(蠅取りボンみたいなもの)で虫を捕殺する

などの方法があります。



防虫ネットで虫除けをする